

時々ある。

⑥到着から出発まで一時間程度。

＊個人の場合

参拝者に時間の余裕がある時、本堂へ案内し茶菓の接待をし、寺（本尊等）の紹介や世間話をしてひと時を過ごしていただく。

住職・老僧不在の時、参拝者に時間の余裕がない時は、朱印を渡すのみとなる。

今回の参拝だけでなく、機会があればまた立ち寄りたいと思ってももらえるように心がけております。



第十八番 白毫寺

近畿楽寿観音三十三ヶ所霊場会加盟寺院の皆様方には、日頃から何かとお世話になり感謝申し上げます。

第十八番の五大山白毫寺は、兵庫県の中東部に位置する丹波市市島町にある天台宗の寺院です。古くから「太鼓橋の架かる寺」として親しまれ、近年では「九尺ふじの寺」としても知られるようになりました。



白毫寺の九尺ふじ。全長120m・幅9mの藤棚いっぱい咲きほこり、参詣者の目を楽しませる。

開基は、今から遡ること一千三百余年前の慶雲二年（七〇五）、法道仙人によるものです。ご本尊は、仙人が天竺から将来されたと伝わる薬師瑠璃光如来で、秘仏となっています。

また、「東方見聞録」や「西遊記」と共に『世界三大旅行記』として知られ

る「入唐求法巡礼行記」を記した慈覚大師円仁（第三代天台座主）が、承和十四年（八四七）に唐から帰朝の過程で留錫し、当寺を中興されました。この際、本尊が眉間の白毫から神々しい威光を放っていたことから寺号を「白毫寺」と名付け、周囲の山並みが唐の五台山に似ていることから山号を「五台山」と命名（後に五大山と改称）されたといわれています。

開祖法道仙人はインドの僧で、中国の五台山で修行の後に日本を訪れました。円仁もまた、同じ五台山で修行を重ねています。五台山は、日本の念仏や浄土思想にも大きな影響を与えた中国屈指の仏教聖地です。その五台山に、開祖も中興の祖も共に縁があるのは不思議な因縁というしかありません。

鎌倉時代には七堂伽藍が建ち並び、南北朝時代に入って赤松貞範など地元領主の庇護のもと、九十三坊を擁する丹波屈指の寺院として隆盛を極めました。しかし、織田信長による丹波攻略に伴い、天正七年（一五七九）に明智光秀率いる軍勢の兵火で焼失。しかし人々の厚い信仰に支えられ、立派に再興して今日に至っています。